

# 歴史散歩

れきしさんぽ°No.5



昭和50年代の寺町の景観（木村桂三撮影）

## 寺町

西鉄久留米駅から北方500m、歩いて7～8分で閑静な雰囲気を残す寺町に着きます。昭和通りから北に分かれた道の両側に17ヶ寺が並び立つ姿が現れます。これだけの数の寺院が並ぶ光景は久留米のどの地区でも見ることはできません。

寺町の建設は、断絶した田中家の後をうけて筑後国北半分の21万石の大名となった有馬豊氏によって元和7年（1621）から始められました。

有馬豊氏は、入国直後から久留米城の大拡張に取りかかり、城内になった地区にあった寺院を寺町に移転させます。さらに領内の寺院や丹波国福知山から随行してきた僧侶などに寺地を与えて寺院を創建させ、今日の寺町の基本的な姿を作り上げました。

寺町の完成は、明暦2年（1656）頃までかかりますが、基本は豊氏代に形成されました。

また寺町の寺院群は、久留米城下町を守るため設けられた防衛線としての役割も持っていました。

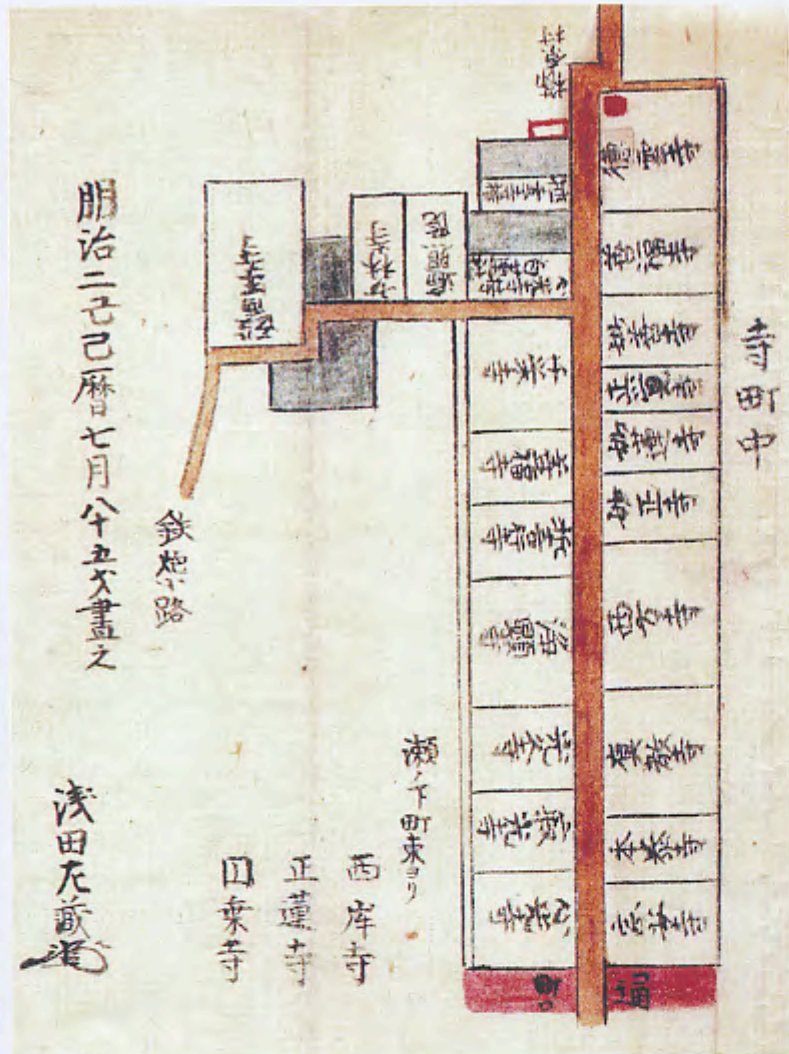
寺町は、建設から約370年経過していますが、江戸時代の姿をしのぶことができ、その歴史的景観は久留米の貴重な財産といえます。



■応永の地藏彫像板碑(医王寺)



■井上伝墓(徳雲寺)



■明治2年の寺町絵図



■本泰寺の山門



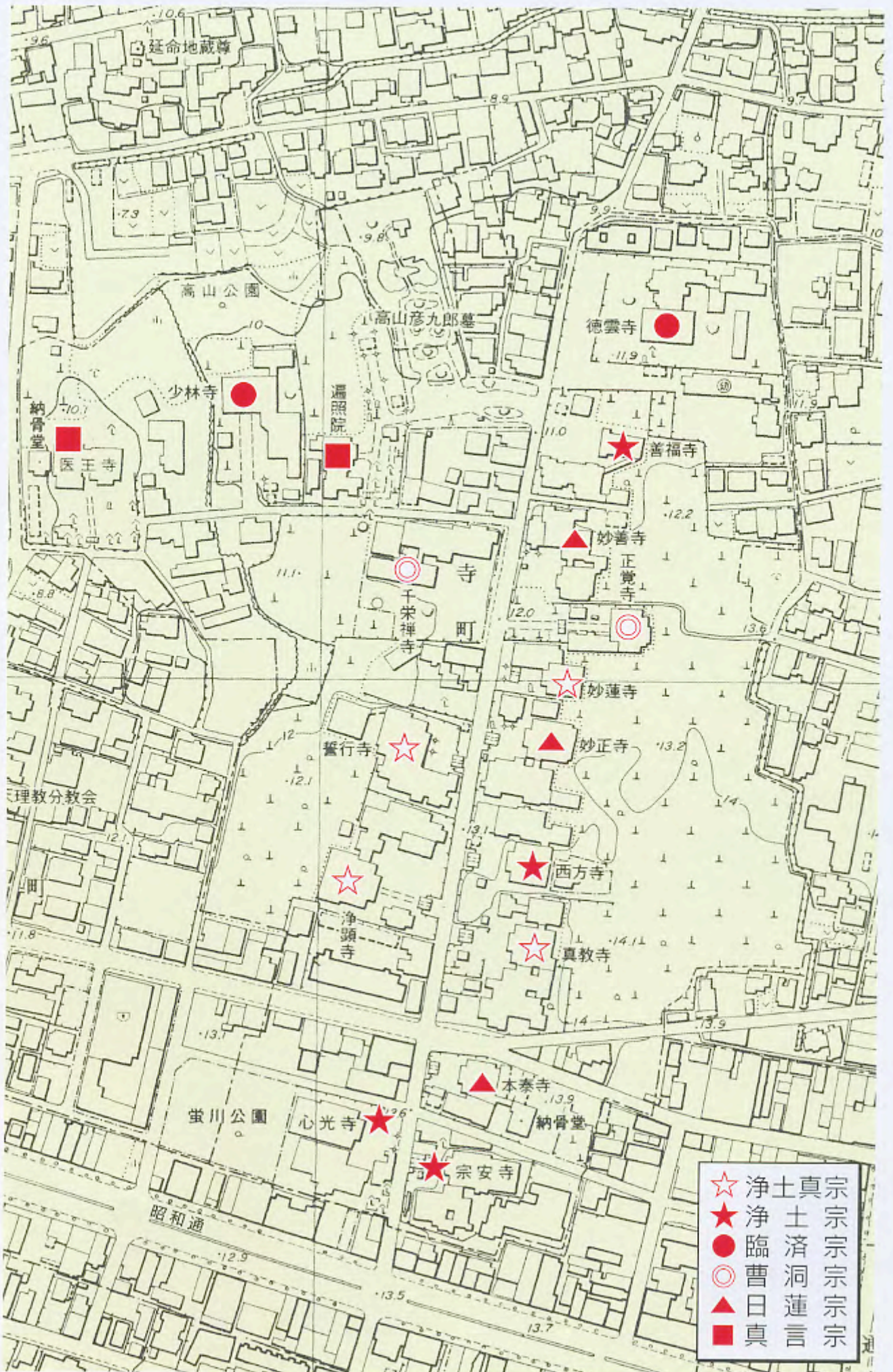
■寺町の通り



■警行寺の本堂と庭園



■千栄寺の本堂

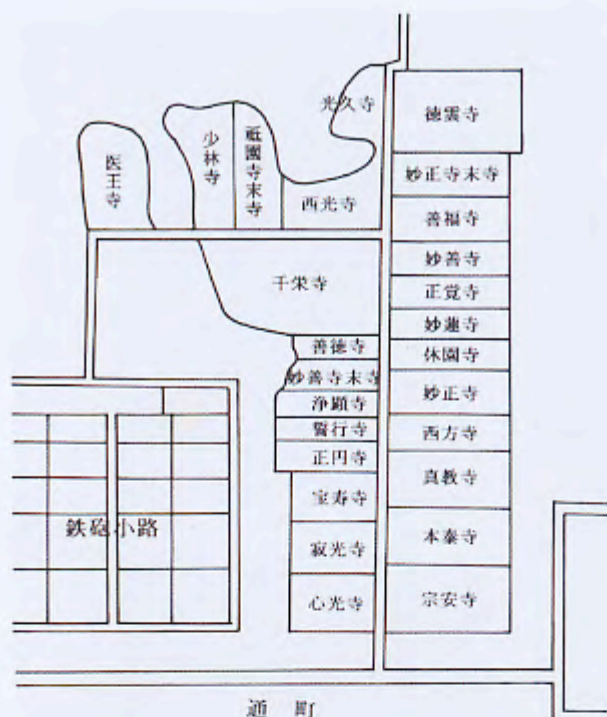


- |   |       |
|---|-------|
| ☆ | 浄土真宗  |
| ★ | 浄土宗   |
| ● | 臨濟曹洞宗 |
| ◎ | 曹洞宗   |
| ▲ | 日蓮宗   |
| ■ | 真言宗   |

## 宗教センターとしての寺町

寺町には、創建間近い延宝年間(1673~80)には末寺を含めて25ヶ寺がありました。天保年間(1830~43)には22ヶ寺となっています。現在はいっと減り、浄土宗4ヶ寺、浄土真宗4ヶ寺、日蓮宗3ヶ寺、曹洞宗2ヶ寺、臨済宗2ヶ寺、真言宗2ヶ寺の計17ヶ寺です。天台宗の寺院は、創建されることはありませんでした。珍しい宗派としては一遍が開いた時宗の寺院が江戸初期にありましたが、廃寺になっています。

寺町は、久留米城下町に住む人々の墓地としての役割をもっていました。そのため寺町の寺院には江戸時代から現在まで、久留米の発展に貢献した多くの先人たちの墓があります。徳雲寺には久留米緋の始祖井上 伝、遍照院の高山彦九郎などの墓があります。各寺院の説明板を見ながら、先人たちを尋ねるのも寺町発見の楽しみです。



■延宝年間(1673~1680)の寺町

## 寺院建築を見て歩く

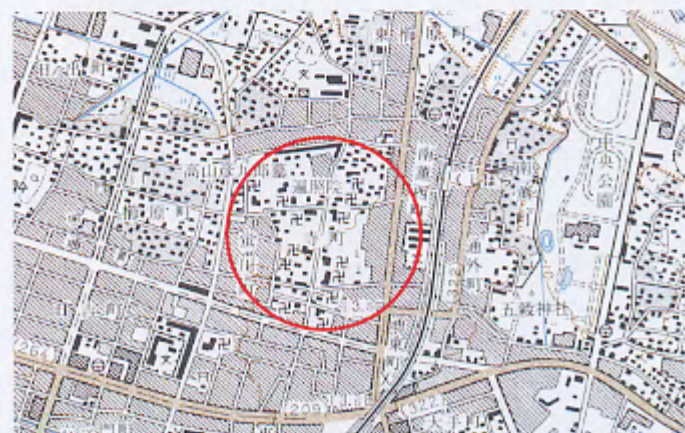
寺町には、様々な寺院建築が見られます。木造から鉄筋コンクリートまでいろいろの工法の建物が見られます。山門を取り上げて本泰寺の唐門は独創的ですし、妙蓮寺の山門は武家の門が転用されたもので、その趣を残します。千栄寺本堂は、教会にも見間違える建物ですし、徳雲寺の本堂は、郷土が生んだ偉大な建築家菊竹清訓氏の設計の素晴らしい建物です。また、誓行寺の庭園と見事に一体となった木造の本堂は、時代を経た枯れた重厚さを感じさせます。じっくり見れば、宗派によって建築様式が違うことにも気付かれるはずです。清正堂は、日蓮宗の寺院しかありません。そんな例が多くあるはずです。弘法大師像は、浄土真宗の寺院には祀られないことなど、いくつも発見しましょう。

## 石の文化の宝庫をみて歩く

各寺院には、五輪等や無縫塔などの石塔や地蔵像など様々な石造遺物が残されています。寺町で最も古い遺物は、応永5年(1398)の年紀を持つ医王寺の地蔵彫像板碑(市指定文化財)です。その他にも中世にのぼる六地藏さんなどが境内に祀られています。石の文化をじっくり見て回しましょう。

## おねがい

寺町の寺院は、宗教施設です。境内に立ち入る際には十分に失礼のないようにしましょう。



※交通機関 西鉄久留米駅下車北へ500m

発行機関 久留米市教育委員会  
久留米市城南町15番地3  
文化観光部文化財保護課  
発行日 平成18年3月31日(改訂)